

ソーシャルスキルトレーニングVR



User's
Voice
vol.4



FACE DUO

未来思考で地域づくりを加速させていく

医療法人くすのき会
南飯能病院

当院について

チームワークで進めるリカバリー

◆リカバリーを目指すこと=未来思考

当院は、近年地域移行を目指して訪問看護の強化や病棟の機能分化を進めて来ました。地域移行ではリカバリー、特にパーソナルリカバリーは重要なキーワードになりますが、地域を大きな治療施設と捉えて、民間の精神科病院は生活基盤を支える機能のひとつ、すなわち暮らしのサポーターであるべきだと考えています。また地域移行には行政との関係作りも欠かせません。最近行政・保健所とお互いの信頼関係を構築するための様々な取り組みを通じて地域連携ネットワークを先んじて進めています。地域の未来を見据えて、こうした地道な活動を通じてリカバリーを進めていけるチームワークが我々の強みだと思っています。



院長・理事長 角田健一 先生

導入のきっかけ

VRを通してSSTを院内の共通言語に



当院でもかつて心理社会的介入、特にSST（ソーシャルスキルトレーニング）の機運が盛り上がった時期がありましたが、多くのスタッフが実践半ばで断念していました。そんな中で知った“FACE DUO”が現状課題の解決にアプローチできる良い機会になるのではと思い立ちました。コミュニケーションスキルをVRデバイスで扱う過程がSSTの学ぶ機会にもなり、やがてスタッフ間の共通言語になる未来を感じて導入を決定しました。そして、私が皆にお願いした事は、「VR毎日使い倒して！」それだけです。

当施設での活用事例 ①

デイケアのSSTプログラムで導入 —先入観にとらわれず様々なケースで活用すること—

まず最初に今のSST利用者の方に果たしてVRを受け入れて貰えるかという不安がありました。現状に慣れた方にはSST-VRが果たして受け入れて貰えるか。そして同時に活用するスタッフ側も使いこなせるか、を考えていました。



永山デイケア長

秋山心理士

現状を変えたSTEP

STEP1：VR知って貰う事を目的として先ずデイケア内で拡大イベントの実施

★結果①⇒SST既存利用者も新規利用者も等しく好反応！

★結果②⇒スタッフも使用に慣れた

STEP2：デイケアSST-VR導入事例を院内の各部署に情報発信

★結果①⇒デイケア活用を手本に病棟や訪問看護でのVR活用が拡大

★結果②⇒SSTを実施できるスタッフ育成が加速

今は「先入観にとらわれず様々なケースでVR試すべき」と自信を持って言えます。FACE DUOの汎用性の高さは活用されている頻度で日々実感しています。(永山デイケア長)

当施設での活用事例 ②

リワークでの活用 —日常を切り取る習慣づくりをVRがサポートしてくれる—

デイケアチームのリワーク班でもFACE DUOを積極的に活用しています。日頃のトレーニングで日常のリアルを切り取り自覚して貰う事を大事にしていますが、VR動画を用い始めてから、大きな変化が起こっています。

全てのコンテンツに示されている“こころの仕組み図”（右図参照）は、行動原理を吹き出しのように可視化（「感情」と「思考」を分解）されており、これを示す事で集団に対しても場面を見せながらディスカッションすることが出来る様になりました。ビジュアルで明解に共有するシンプルな作業プロセスは、時間の効率化だけでなく、次の作業を展開するまでの余裕と、指導する側の面白みにも繋がっています。

デジタルの新たな導入によってチームでの新規態勢も目途が立ち、利用者の受け入れ枠も更に増やす事が出来ています。(秋山心理士)



「こころの仕組み図」

社会スキルの課題を、
情報処理過程の視点で解説

今後の展開

「地域と共に」を加速させるために必要な選択

心理社会療法は実施環境によってアウトカムに差が出ると考えています。FACE DUOはそういった点で活用する意思さえあれば、デジタルの支援で一定の質も担保される可能性に魅力を感じています。

SST-VRは活用する過程で支援者自身も学びとなることは、スタッフの成長にも繋がることが期待できます。

また当院では、行政と連携し、ひきこもり支援にも力を入れ始めており、幅広い疾患に応用できるFACE DUOの強みに期待しています。今後も未来思考でリカバリーを目指す医療のためにデジタルを取り入れる機会は積極的に選択し、地域に貢献できる施設づくりを加速させていきます。

詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売 Otsuka

開発・製造 JOLLY GOOD!